

愛は南から

城辺中学校男子剣道部が四国制覇！

3月5日・6日に徳島県阿波市で開催された「第11回四国中学校新人剣道大会」において、城辺中学校男子剣道部が団体の部で見事優勝を果たし、四国一の栄冠に輝きました。男子剣道部が団体戦で四国を制したのは初めてのことで、あいなん幼稚園屋内運動場で日々稽古に取り組む剣道部取材しました。

- 質問 ① 当日はどんな心境で試合に臨みましたか？
② 剣道の魅力ややりがいはどこなところですか？

藤田 脩人くん(3年)



- ① 大会当日は緊張したが、必ず勝つという強い気持ちをもって臨んだ。
- ② 精神面を鍛えることができ、礼儀を身に付けられるところ。

本多 琢馬くん(3年)



- ① 自分が一番緊張していたが、考え過ぎず試合に勝つという気持ちで臨んだ。
- ② 日々の稽古をやり切ったときの達成感。

高平 貴宣くん(2年)



- ① 相手に負けないという強い気持ちで臨んだ。空き時間にリラックスして緊張を解いた。
- ② 気持ちが強くなることと、あいさつや礼儀を身に付けられるところ。

池田 泰士くん(2年)



- ① 前日の錬成会(練習試合)で負けていたので、本番では負けないという強い気持ちで臨んだ。
- ② 厳しい稽古を乗り越えることで、剣道以外のこと(あいさつなど)も身に付けられるところ。

児島 兼聖くん(2年)



- ① 先鋒だったのでチームの流れを良くするために、必ず一本を取るという気持ちで臨んだ。
- ② お互いに声を掛け合い、チームで協力できるところ。

増田 陽海くん(2年)



- ① 試合には出ていないが、みんなを信じて、絶対に勝つという気持ちをもって臨んだ。
- ② 心を鍛えて精神を強くできるところ。

体育館にはつらつとした声が響き、緊張感のある中で稽古が行われていました。練習は一つ一つの動きが機敏で、統制がとれています。顧問の児島哉也先生は「中学校の部活動なので、勝ち負けよりも人間的成長が大事。今回は日々の稽古が結果につながったが、学業と部活動を両立して成長していくことを重視している」と話されました。

部員の皆さんは、「全国大会に出場することを目標にしている」と力強く語りました。



折れた竹刀はテープを巻いて再利用